

# 薬剤耐性(AMR)対策の現状及び 現在の取組について

厚生労働省健康局

## 1. 普及啓発・教育

- ・ 1.1 国民に対する薬剤耐性の知識・理解に関する普及啓発活動の推進
- ・ 1.2 関連分野の専門職に対する薬剤耐性に関する教育、研修の推進

## 2. サーベイランス・モニタリング

- ・ 2.1 医療・介護分野における薬剤耐性に関する動向調査の強化
- ・ 2.2 医療機関における抗微生物薬使用量の動向の把握
- ・ 2.3 畜水産、獣医療等における動向調査・監視の強化
- ・ 2.4 医療機関、検査機関、行政機関等における薬剤耐性に対する検査手法の標準化と検査機能の強化
- ・ 2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する統合的なワンヘルス動向調査の実施

## 3. 感染予防管理

- ・ 3.1 医療、介護における感染予防・管理と地域連携の推進
- ・ 3.2 畜水産、獣医療、食品加工・流過程における感染予防・管理の推進
- ・ 3.3 薬剤耐性感染症の集団発生への対応能力の強化

## 4. 抗微生物製剤適正使用

- ・ 4.1 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進
- ・ 4.2 畜水産、獣医療等における動物用抗菌性物質の慎重な使用の徹底

## 5. 研究開発・創薬

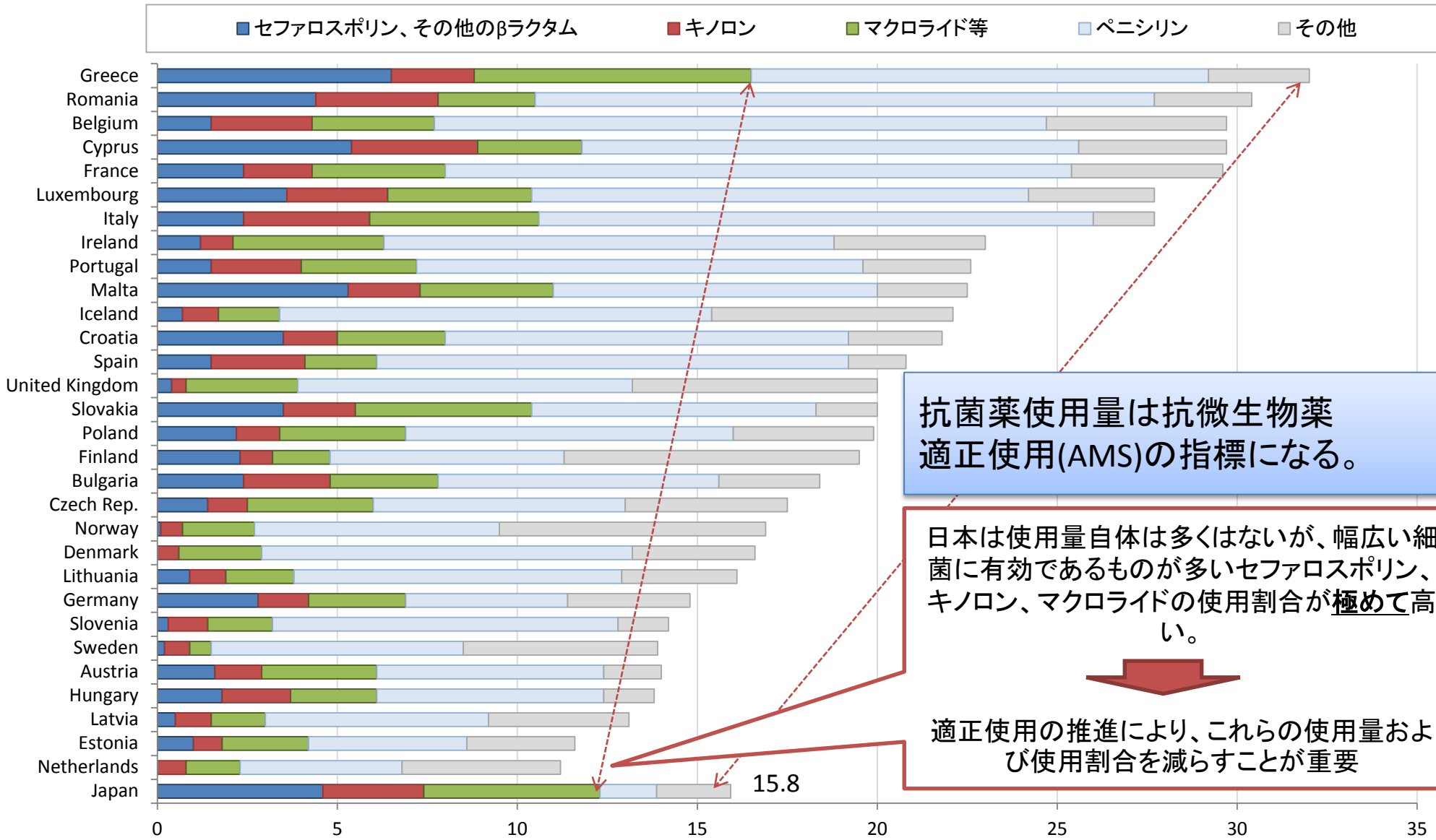
- ・ 5.1 薬剤耐性の発生・伝播機序及び社会経済に与える影響を明らかにするための研究の推進
- ・ 5.2 薬剤耐性に関する普及啓発・教育、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用に関する研究の推進
- ・ 5.3 感染症に対する既存の予防・診断・治療法の最適化に資する研究開発の推進
- ・ 5.4 新たな予防・診断・治療法等の開発に資する研究及び産学官連携の推進
- ・ 5.5 薬剤耐性の研究及び薬剤耐性感染症に対する新たな予防・診断・治療法等の研究開発に関する国際共同研究の推進

## 6. 国際協力

- ・ 6.1 薬剤耐性に関する国際的な施策に係る日本の主導力の発揮
- ・ 6.2 薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン達成のための国際協力の展開

# 薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(2016.4.5)における数値目標

## 医療分野における抗菌薬使用量



抗菌薬使用量は抗微生物薬適正使用(AMS)の指標になる。

日本は使用量自体は多くはないが、幅広い細菌に有効であるものが多いセファロスポリン、キノロン、マクロライドの使用割合が極めて高い。

↓

適正使用の推進により、これらの使用量および使用割合を減らすことが重要

人口1000人あたりの平均一日抗菌薬使用量

# 薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの進捗

## 1 普及啓発・教育

薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議(内閣官房)

AMR臨床リファレンスセンター

- ・「薬剤耐性へらそう！」応援大使(内閣官房)
- ・薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動の表彰(内閣官房)
- ・研修、セミナー開催(2017年度～)

## 2 動向調査・監視

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

AMR臨床リファレンスセンター

- ・院内感染サーベイランス(JANIS)、感染症発生動向調査(NESID)
- ・国内サーベイランスの統合的分析を検討(2017年度～)

## 3 感染予防・管理

院内感染対策中央会議

AMR臨床リファレンスセンター

- ・ワクチン接種・院内感染制御の推進
- ・資材作成・研修・人材育成(2017年度～)

## 4 抗微生物薬の適正使用

抗微生物薬適正使用(AMS)等に関する作業部会

AMR臨床リファレンスセンター

- ・「抗微生物薬適正使用の手引き」作成
- ・その他ガイドラインの作成(2017年度～)

## 5 研究開発

薬剤耐性感染症(ARI)未承認薬迅速実用化スキーム

- ・耐性菌感染治療薬の創薬支援

## 6 国際協力

グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)

AMRアジア閣僚級会合(2016年4月)

- ・院内感染サーベイランス(JANIS)システムの海外展開
- ・AMRワンヘルス東京会議開催(2017年11月)

# 抗微生物薬適正使用に向けた取り組み

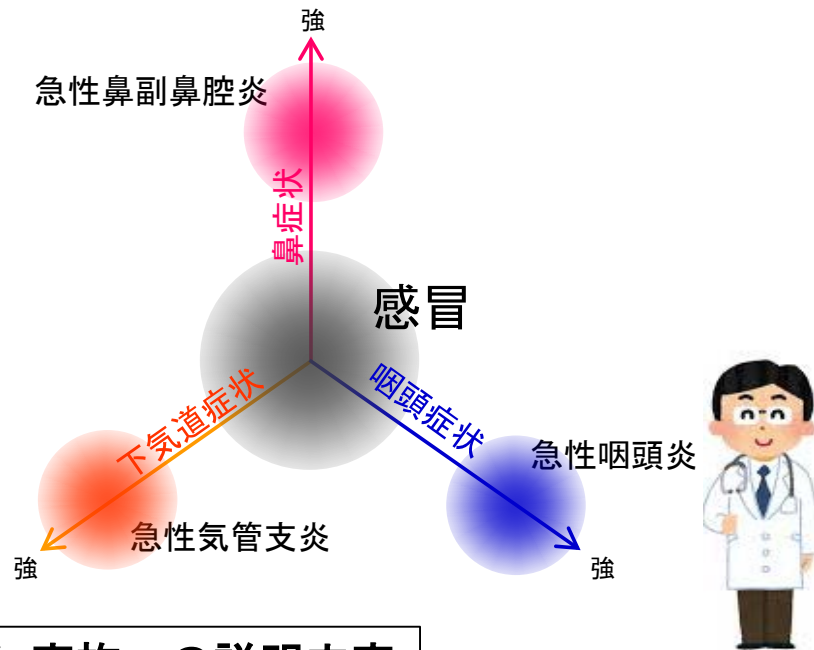
アクションプラン:目標1、4

- ・日本で使用される抗菌薬のうち約**90%**は外来診療で処方される**経口**抗菌薬である。

- ・**外来診療**の現場で活用できる「**抗微生物薬適正使用の手引き 第一版**」を6月1日発表

## 急性気道感染症

### 診断・治療の考え方



### 患者・家族への説明内容

- ・多くは対症療法が中心であり、抗菌薬は必要なし。休養が重要。
- ・改善しない場合の再受診を。

## 急性下痢症

### 診断・治療の考え方

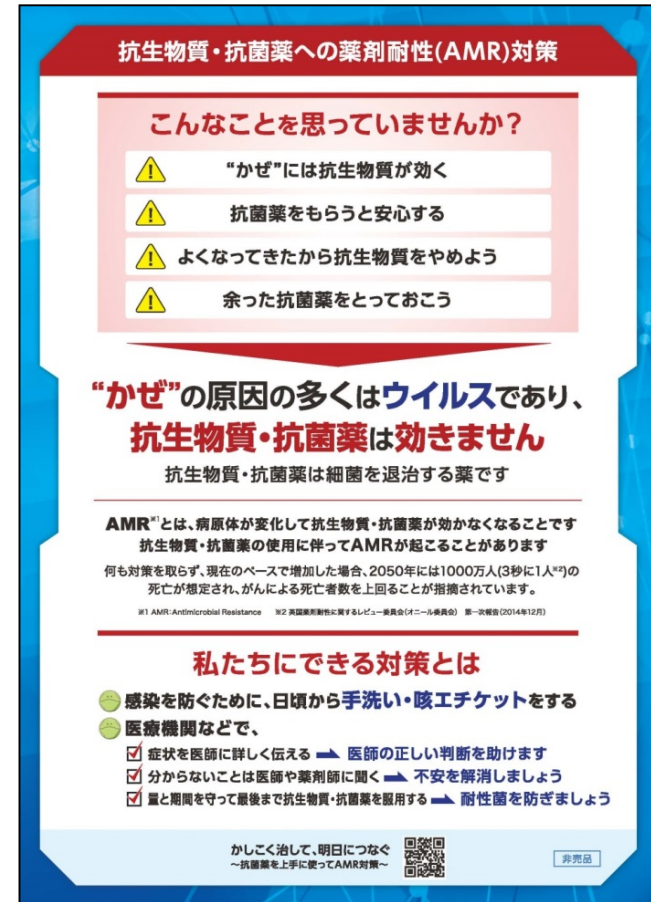
- ・細菌性・ウイルス性に関わらず、多くは自然に治るため、抗菌薬は不要。
  - ・対症療法や水分摂取励行が重要。
- ✓ 全身状態(日常生活への支障程度)
  - ✓ 海外渡航歴
  - ✓ 血性下痢
  - ✓ 発熱
- 等を踏まえて、便の検査や抗菌薬処方を検討。

### 患者・家族への説明内容

- ・多くは対症療法が中心であり、抗菌薬の使用は、腸内細菌叢を乱す可能性あり。
- ・糖分、塩分の入った水分補給が重要。
- ・感染拡大防止のため、手洗いを徹底。
- ・改善しない場合の再受診を。

# 薬剤耐性 (AMR) コラボレーションポスター・リーフレット

## アクションプラン: 目標 1, 4



作成部数・主な配布先

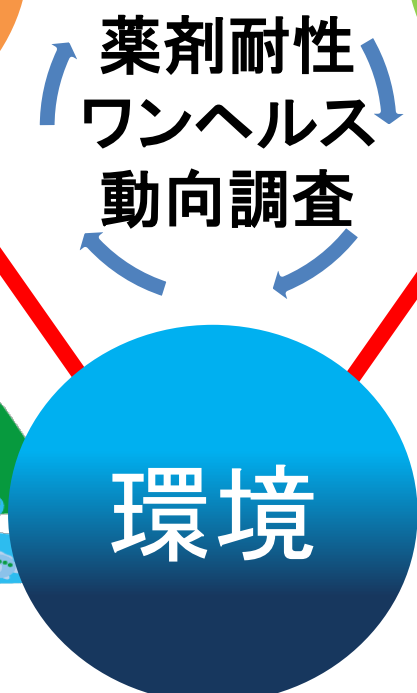
制作物	作成部数	主な配布先
ポスター(A2サイズ)	約3,500部	自治体、各関係団体など
リーフレット(A4サイズ)	約21万部	

# 薬剤耐性ワンヘルス動向調査のイメージ

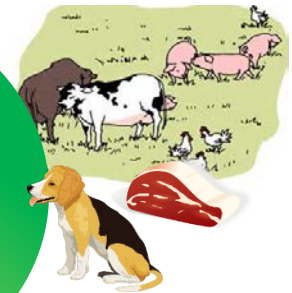
## アクションプラン: 目標2

- ヒト・動物・食品・環境に関する各サーベイランスのデータに基づき、統合的な分析、評価を実施し、抗菌薬使用量や耐性率の公表、耐性菌の拡散の早期発見、水平伝播の存在の把握等を図る。
- ワンヘルス動向調査年次報告により、本アクションプランの成果指標を評価。
- 平成29年度の報告書は10月18日に公表。

- ヒトの抗菌薬使用量 (NDB・JACS)
- 入院患者での耐性菌 (JANIS)
- 入院患者での医療関連感染症 (JANIS)
- 薬剤耐性菌による感染症 (NESID)



薬剤耐性  
ワンヘルス  
動向調査



- 家畜用食用動物への抗菌剤使用量
- 畜産動物糞便中の耐性菌
- 食品中における耐性菌
- 愛玩動物における耐性菌

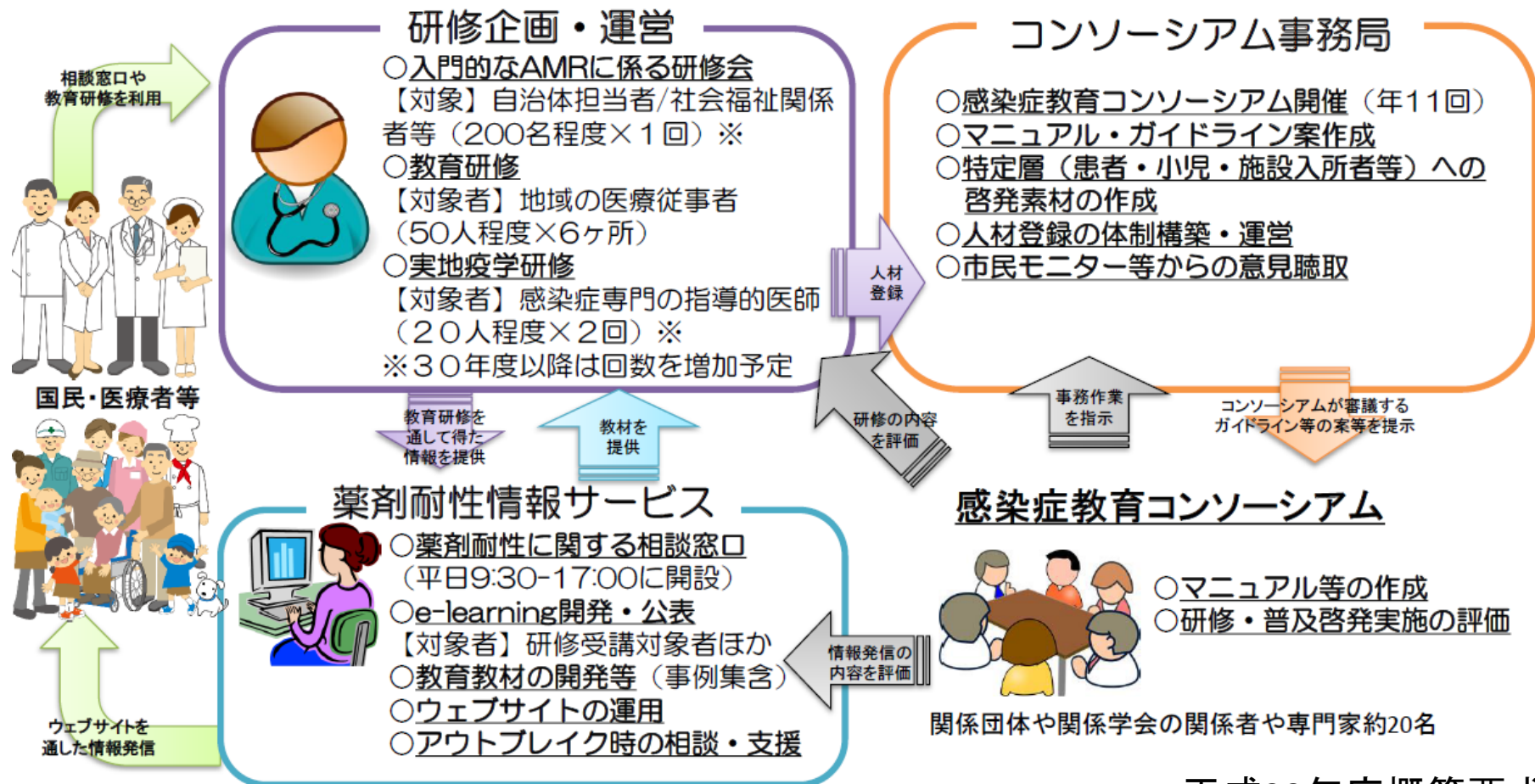
- 水圏・土壌における耐性菌等

# 薬剤耐性(AMR)対策情報・教育支援事業

## アクションプラン:目標 1, 3, 5

### 【概要】

薬剤耐性(AMR)対策を推進するため、薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議:平成28年4月5日)に基づく情報・教育に係る業務を、国立国際医療研究センターにAMRに関する臨床情報センターとして委託する。





# AMRワンヘルス東京会議(11月13-14日開催)

## アクションプラン:目標 6

### 目的

- ・ アジア地域におけるAMR対策を主導。
- ・ 各国のAMR対策を支援。
- ・ 他国との情報交換により、海外のAMR動向を把握し、より有効な国内対策を推進。等



### テーマ

「抗微生物薬の適正使用」

「ワンヘルスサーベイランス」

### 平成29年11月13日(月)

アジア諸国の保健省・農業省の担当者、WHO等の国際機関からの参加者による国際会議

### 平成29年11月14日(火)

政府担当者、専門家、研究者等による公開シンポジウム